



## 杉本助役 2ヶ月後に誤りを認める

### しかし謝罪はなし

1 2月に運転整備で、緊急ブレーキリセットを前部標識の確認の前に行った組合員に対して、杉本助役は、「緊急ブレーキリセットの前に前部標識を確認することになっている」と注意指導を行った。しかし、基本動作集で確認すると、着発線での運転整備の緊急ブレーキリセットは、前部標識の確認前に行うとなっているのではないかと、2月に支社に申し入れをおこなうと、直ぐに緊急面談の中で「緊急ブレーキリセットの時期について、1 2月の添乗の注意指導は、間違いであった。着発での運転整備時の緊急ブレーキリセットは、前部標識の前におこなうのが正しい」と訂正を行ってきた。今まで、指導の言うことは、「絶対であり間違いはない」と言ってきたのは何だったのか。

指導助役が、基本動作も知らずに添乗して、誤った注意指導を行うというのは、ブラックジョークそのものです。しかし管理者の言うことに「間違いがない」というならば、どんな無理も通ってしまうのではないのでしょうか。

人間、間違いはある。間違ったことに対しては、謝罪するのが社会のルールではないのでしょうか。

**間違った注意指導に対して謝罪しろ！**

**今までも注意指導の間違いがなかったか  
明らかにしろ！**